



ナビゲーター：ビヨノ(末原 拓馬)

早稲田大学在学時、2006年劇団「おぼんろ」を旗揚げ。「おぼんろ」は大人のための寓話を紡ぎ出すことを特徴とし、その普遍性の高い物語と独特な舞台演出技法によって注目を集めてきた。2021年「おぼんろ」オリジナル公演「瓶詰めめの海は寝室でリュズタンの夢をうたった」を作・演出・出演。さらに同作品の小説を講談社より出版。劇団公演は毎年実施しており、近年は朗読劇の脚本、演出、25次元舞台の演出など活動の幅を広げている。他にもグッズのイラスト、小説の挿絵、舞台の衣装デザインなどアーティスト活動も行っている。



指揮：碓山 隆一郎

鹿児島県喜界島出身。指揮を広上淳一、汐澤安彦の各氏に師事。東京音楽大学および大学院を修了し、2015年より渡独。マンハイム音楽大学でオーケストラ指揮を学び、南西ドイツ・フィルハーモニー交響楽団、オペラ・プロヴディフ・シンフォニーオーケストラ等と共演。2017年には拠点をダルムシュタット音楽アカデミーに移し、合唱やオペラの分野でも研鑽を積む。帰国後は群馬交響楽団、横浜シンフォニエッタ、オーケストラ・アンサンブル金沢、愛知室内オーケストラ、中部フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団等へ客演。現在、りゅーとびあ新潟市民文化芸術会館「新潟市ジュニアオーケストラ教室」指揮者。その他、茨城県民オペラ協会との共演や、若手オペラ歌手による団体を組織するなど、積極的にオペラ作品にも取り組んでいる。

出演 9月19日(火)堺市立八田荘西小学校、9月20日(水)大阪市立瓜破西中学校



指揮：佐々木 新平

秋田県出身。東京学芸大学を経て桐朋学園大学にて指揮を専攻。ヨーロッパ各地の国際指揮マスタークラスに選拔され巨匠たちの薫陶を受ける。2013年よりミュンヘンへ留学しヨーロッパ各地でさらなる研鑽を積んだ。2012年および2017年フィテルベルク国際指揮者コンクールにおいてディプロマ、2015年ブザンソン国際指揮者コンクールにおいて本選最終の8人に選出。これまで国内主要楽団に客演。2021年よりヤマハ吹奏楽団常任指揮者。現在オーケストラを中心にあらゆるシーンで才能を発揮するほか、テレビ、ラジオへの出演、多彩なレコーディングやイベントでの指揮を務めるなど多方面に活動の幅を広げている。しなやかな足取りで、ひたむきに遥かなる高みに向かう若き指揮者。

出演 10月11日(水)大阪市立大江小学校／10月12日(木)坂出市立白峰中学校／10月17日(火)三好市立箸蔵小学校
10月18日(水)東みよし町立足代小学校／10月19日(木)徳島市佐古小学校

演奏：パシフィックフィルハーモニア東京

1990年「東京 ニューシティ管弦楽団」として設立。定期演奏会等の自主公演の他、オペラ、バレエ、音楽鑑賞、レコーディング、テレビ・ラジオ出演など幅広く活動。また2017年からポップス定期演奏会を開催し、アニメ・ゲーム音楽など各界のアーティストと共演を続けている。2018年からは楽団誕生の地である練馬で練馬定期演奏会を開催し、地元で根差した活動も行っている。2022年4月には飯森範親が音楽監督に就任し、さらに楽団名を「パシフィックフィルハーモニア東京」へ改称して、更なる飛躍を目指す。音楽監督：飯森範親／指揮者：園田隆一郎

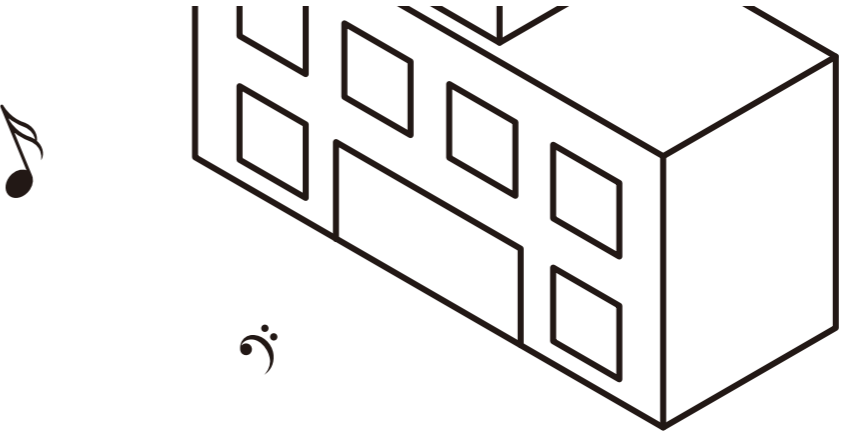


ポップスエグゼクティブプロデューサー：藤原いくろう

ソプラノ：梅津碧(9月19日(火)堺市立八田荘西小学校、9月20日(水)大阪市立瓜破西中学校、10月11日(水)大阪市立大江小学校、10月12日(木)坂出市立白峰中学校)／金持亜実(10月17日(火)三好市立箸蔵小学校、10月18日(水)東みよし町立足代小学校、10月19日(木)徳島市佐古小学校)／竹下裕美

2023.9.19

10.19

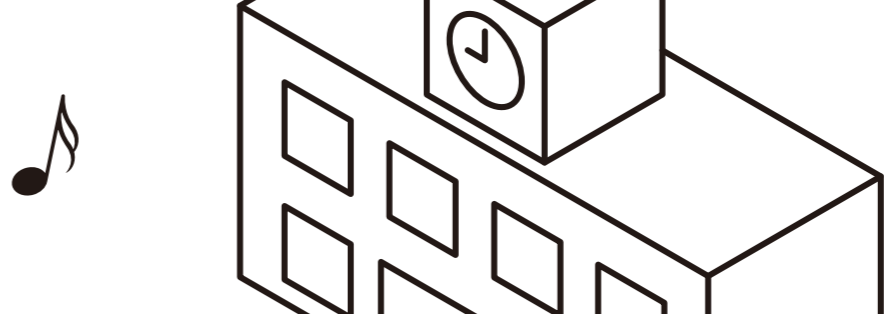


PACIFIC PHILHARMONIA TOKYO NORICHIKA IIMORI MUSIC DIRECTOR

令和5年度 学校巡回公演事業
パシフィックフィルハーモニア東京

がっこうじゅんかいこうえんじぎょう 学校巡回公演事業

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などをやしなひ、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 独立行政法人日本芸術文化振興会

1

フレデリック・ディーリアス

小管弦楽のための2つの小品 - 第1曲 春を告げるかっこうを聞いて

イギリスの作曲家ディーリアスによる、北国の一足遅くやってくる春を描いた曲です。清らかな空気がただよう森を思わせる、ふんわりと柔らかい音楽で始まります。そのなかから、クラリネットによってかっこうの鳴き声が聞こえてきます。その声が遠ざかったり、また戻ってきたりと、森の広さを感じさせるように作られているのです。

2

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン

交響曲第82番 ハ長調「熊」Hob.I:82 - 第4楽章 フィナーレ - ヴィヴァーチェ

100曲以上の交響曲を書いたハイドンは、「交響曲の父」と呼ばれるドイツの作曲家です。第82番「熊」の第4楽章は、熊の低いうなり声のように、あるいは重々しい熊の足取りを表わしたような音楽で始まります。この「熊」のテーマは、ときに荒々しく、またほかのメロディと絡み合いながら、曲のあちこちに顔を出します。

3

カミーユ・サン＝サーンス

動物の謝肉祭 第1曲 序奏と堂々たるライオンの行進、
第5曲 象、第7曲 水族館、第12曲 化石、第13曲 白鳥、第14曲 終曲

フランスの作曲家サン＝サーンスがさまざまな動物を描いた組曲です。「序奏と堂々たるライオンの行進」で華々しく始まり、コントラバスの低音がのっそり巨大な姿を描く「象」、キラキラと魚が輝くミステリアスな「水族館」、「化石」では骨のゴツゴツした感じを鋭いリズムで作ります。続く「白鳥」は、チェロが気品高く歌います。最後の「終曲」では、これまで登場した動物たちが集まったかのような、にぎやかな音楽に。

4

休憩(きゅうけい)

ジャン＝フィリップ・ラモー

コンセール形式によるクラヴサン曲集 コンセール第6番 - 第1曲 めんどり

冒頭のリズムがメスのにわたりの鳴き声そっくりに作られています。コッコ、コッコと声をあげながら、せわしく歩き回る姿がうかがえるようです。フランスの作曲家ラモーが、18世紀の鍵盤楽器クラヴサン(チェンバロ)のために書いた作品で、彼は動物や人の性格など、さまざまなものをユーモラスな音楽で表現しました。

5

ジャン・シベリウス

組曲「レンミンカイネン」Op.22 - 第2曲 トゥオネラの白鳥

フィンランドの作曲家シベリウスは、北欧の厳しい自然をそのまま伝わってくる音楽を書きました。この曲でも、寒々しいトゥオネラ川を一羽の白鳥が泳いでいるイメージを描いています。じつに寂しい、孤独を感じさせる音楽です。オーボエと同じ種類の楽器で、より低く柔らかい音を出すイングリッシュ・ホルンが白鳥を表わすメロディを奏でていきます。

6

ニコライ・アンドレイェヴィチ・リムスキー＝コルサコフ

歌劇「皇帝サルタンの物語」Op.57 - くまんばちの飛行

めまぐるしいほどのスピードと、細やかな動きで、くまんばちがブンブンという音を立てて飛び回っている様子をリアルに表わしています。ロシアの作曲家リムスキー＝コルサコフが書いたオペラ「皇帝サルタンの物語」のなかで、魔法の力によって主人公のグヴィドン王子がハチに姿を変えて飛んでいく場面の音楽です。

7

ジョアキーノ・ロッシーニ

二匹の猫の風変わりな二重唱曲(猫の二重唱)

二人の女声の歌手が、猫が鳴いているような声を繰り返す曲です。二匹の猫がにらみ合い、けんかをしたりじゃれ合ったり、最後はなかがよくなったかのように声をそろえます。イギリスの作曲家パーサーが、ロッシーニのオペラのメロディなどを使って作曲した作品ですが、いつしかロッシーニの作品として広まってしまいました。

8

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

狩のカンタータ「わが楽しみは、元気な狩のみ」BWV208 -
アリア「羊は安らかに草を食み」

優れた作曲のテクニックをもち、美しいメロディを数多く書いたドイツの作曲家バッハ。この曲はある領主の誕生日を祝うために書かれました。羊たちが草原でのんびりと草を食べている、安らかさをそのまま絵に描いたような音楽です。これは、優れた領主がいることで、人々が不満もなく安心して生活していることを意味しています。

解説：鈴木淳史(音楽評論家)